

NPO法人 通信 第16号

★巻頭言

日頃より、NPO 法人道の活動にご協力賜り、心より厚く御礼申し上げます。昨年は西郷南洲没後 140 年にあたり、大河ドラマでも「西郷どん」が放映されていますが、私自身は、西郷の西南の役の前年に同じく反政府の兵を挙げ「萩の変」を起こした吉田松陰の弟子、前原一誠について 30 年近く研究を続け、ようやく「試論」としてまとめあげ、現在ある小冊子に連載しているところがあります。その前原の好んだ「巧詐は拙誠にしかず」という言葉を、NPO 法人道の社訓の 1 つにしております。「技巧を使って賢くやるよりは、拙くとも誠（まこと・まごころ）を尽くす方がよい」という意味になります。

私たち法人の職員は、アート活動を就労支援の中心としていることもあり、その殆どが美大卒になります。いわゆる福祉の専門家ではありません。福祉の専門用語の使用もおぼつかないところもあります。営業も上手ではありません。しかし、拙いながらも「誠」があり、それによって多くのひきこもりでいた方々が、週 3 日も 4 日も通うことができるようになってきております。

この 4 月に報酬改定があり、利用者に支払う工賃の多寡で報酬が決まることになりました。一般でさえアート活動で利益をあげるということは大変難しいわけですので、大幅な減収となります。「利」ということだけに重きをおく評価は、現代の世相のあり方を反映しておりますが、前原はその「功利を以て第一とし」、「利をみて義を忘るる」西洋近代文明に異議を唱えたわけであります。「利」よりも「人生の充実」に価値をおいて美術活動を選んだ職員達は、本来の「幸せに生きる」という意味での福祉に向いているのかもしれないと思うこの頃です。

(岩立)
